資料４－１

五木地域森林整備推進協定との経緯

■ 平成26年度

五木地域の森林共同施業団地に係るJAPICとの意見交換会（10/28）

JAPIC、熊本県庁、五木村、林野庁、九州森林管理局　など計37名参加

・五木地域森林整備推進協定の概要について

・次世代林業システムの地域モデルについて　を議題とした

■ 平成27年度

「五木地域における林業の成長産業化に向けた全体構想」策定

全体構想検討委員会にオブザーバーとして参加

■ 平成28年度

運営会議および３WG（森林情報活用WG、路網戦略WG、コスト低減WG）にオブザーバーとして参加

※３月の会合で協定者は民・国の７者(6.3千ha)に五木村・五木村森林組合が参加（９者(約9千ha)）へ

■ 平成29年度

・10/11-12 五木村事前訪問（予定）

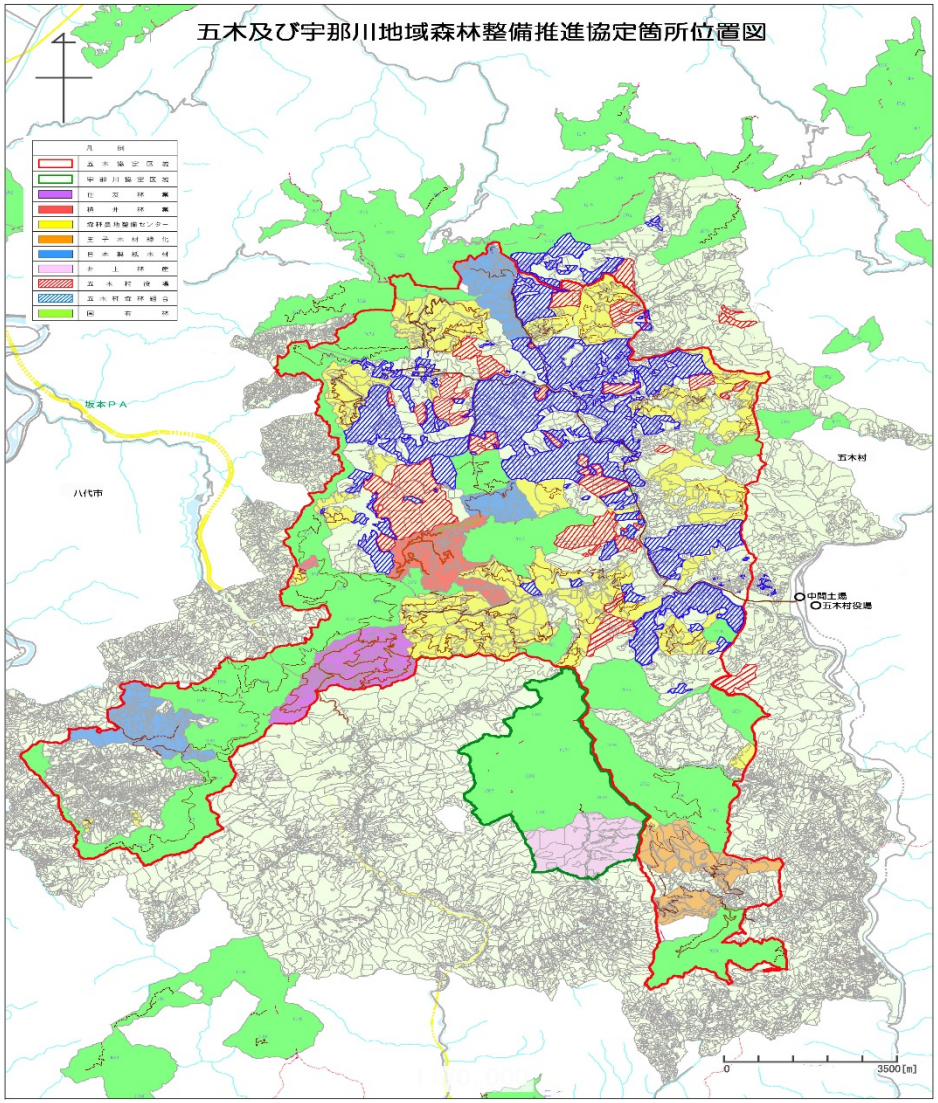
・11/6-8　現地検討会（予定）

施業団地の区域図

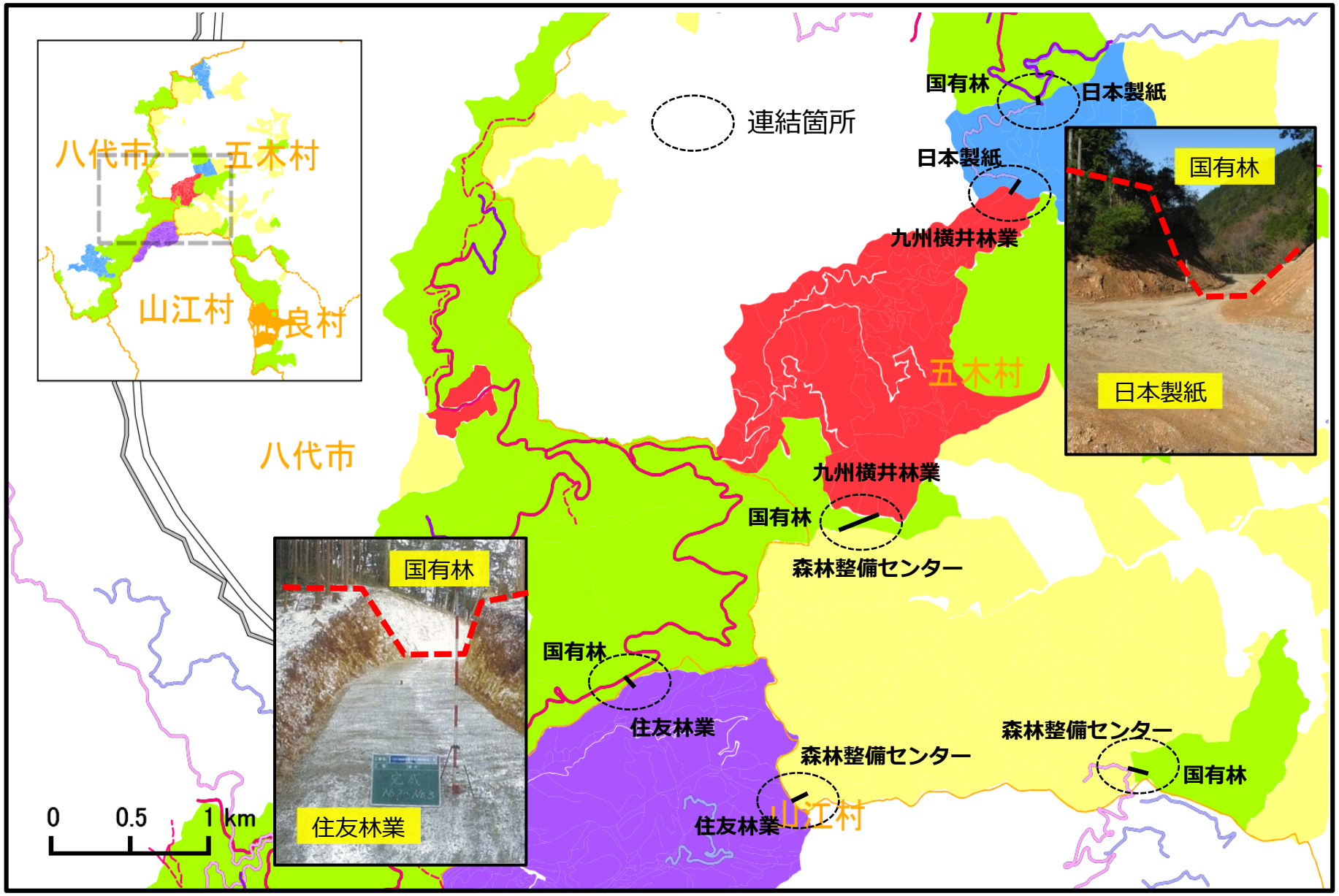
- 五木村及び五木村森林組合の森林整備協定への参加
- 空白のエリアが減少
- 協定地区森林面積

  6.3千ｈａ（旧）

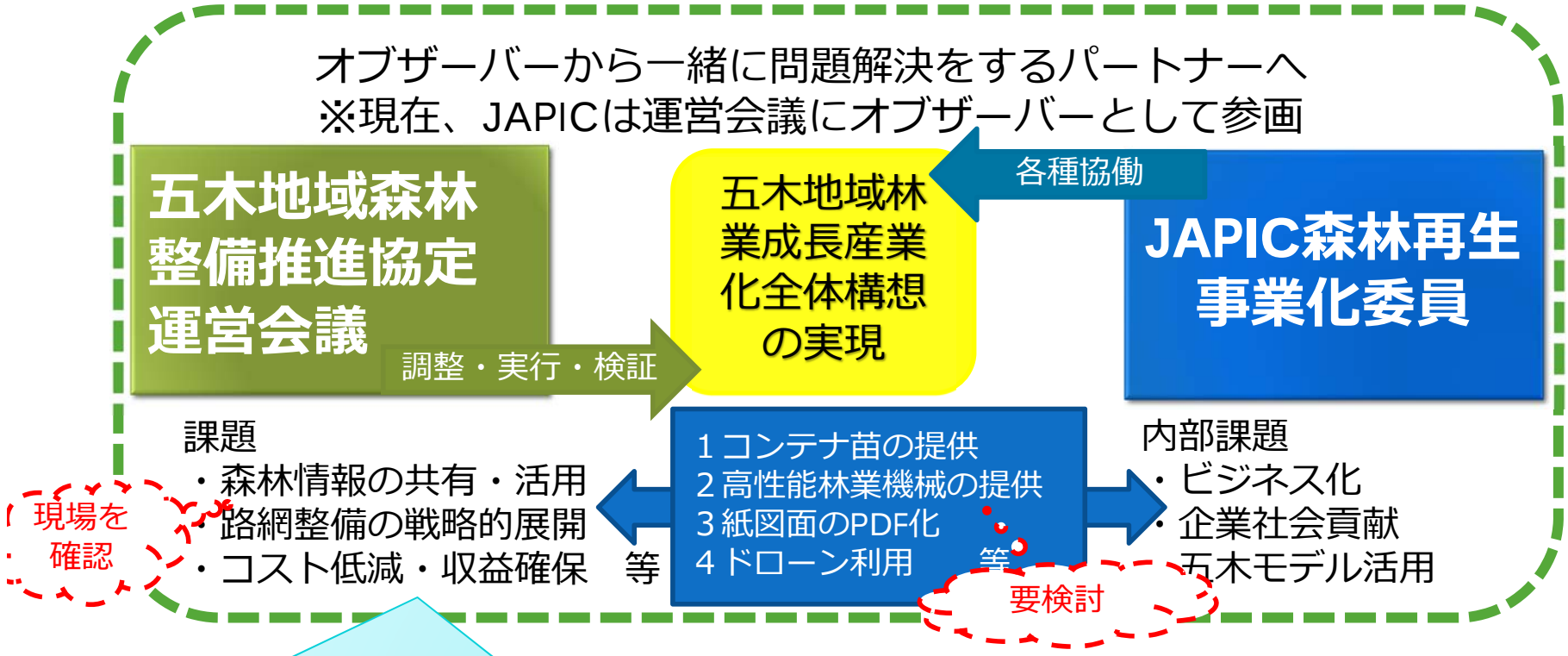
  8.9千ｈａ（現）



路網の連結状況について



五木モデルへの取り組み体制について



※詳細は「次世代林業モデル・平成29年度重点政策提言」参照

五木地区への取り組みの課題

- 大規模施業によるコスト低減効果の検証
  - 林業機械の共同利用の効果
  - 隣接した林地の路網接続の効果
  - 作業班の融通、施業箇所の集約による規模拡大効果など
- SCMによる木材供給量の平準化
  - ICTを活用した川上と川中・川下の連携
  - 川上～川下のプラットフォームづくり
  - 中間土場の有効活用
- 集約型施行に向けた情報基盤整備
  - 森林GISの段階的広域整備の費用や運用の仕組み
  - 個人情報を含む経営計画の共有に関するガイドライン